

## 我々が最も大切にすべきものは



全日本電設資材卸業協同組合連合会  
会長 若林 邦彦

全ての生命が、新たな躍動を開始する素晴らしい季節がやってまいりました。四季折々に姿を変えてくれる日本の自然の素晴らしさが、多くのアーティストや文学者や音楽家を生み出してくれたのだと感謝せずにはおれません。こんな事を書かせて頂いたのは、今から30年程前の春、フランス東北部に在るナンシーという町を訪れた経験からです。現地での用が済んで時間が余ったので、何か見るものは無いかとお聞きしたところ、アールヌーヴォーの美術館が駅のそばにあるとの事、早速訪問を致しました。朝早い時間だったので誰もいない静かな館内で立っていると突然女性が現れて、彼女は私に失礼ですが日本の方ですかと言うのです。ハイと答えると突然私の手を取って、大きな階段を上がり一番奥の突き当りまで案内をしてくれました。目の前にはHOKKAITAKASIMAとアルファベットで書かれていました。彼の様々な作品が展示されており、その日本人離れしたダイナミックな作品に先ず驚きました。実はエミール ガレやドーム兄弟が活躍した町がこのナンシーだったのです。驚くことにその発端となったのが留学中の高嶋北海との交流からだったのです。彼は政府から営林署の研修の為に派遣されていた。当時の事ですからカメラも一般的ではありません。北海が見たものを描き止めていたことは容易に想像できます。そのデッサンや日本のカナ等の美しさに彼らが触発され、様々な作品へと花開いたのです。皆さんもご存知の通り多くのフランス近代画壇の画家たちが北斎、広重等の影響を受けております。何をお伝えしたかったかと申しますと、日本人はオリジナリティに乏しいという方々もいらっしゃいますが、日本人若しくは我が国の文化程オリジナリティに溢れた国は無いのです。現代グローバルバリエーションの渦中で、素晴らしい日本の文化や習慣が、置き去りにされるか、忘れ去られようとしていきます。経済的な成功は日本にとって重要なテーマではありますが、民族の存在価値をもないがしろにした成功は、次世代へ継承していくべきこととは思えません。企業としての価値も、増収増益を金科玉条と考えるより、一番大切なものを犠牲にしない倫理観を持ち続けたいものです。

インダストリー4.0と言われる技術革新、それを支えるAIの登場、更に建設業においては、i-コンストラクションが始まりつつあります。想像を絶する変革期だけに地に足着いた判断能力と行動力が不可欠です。新年度をスタートするにあたり当連合会の様々な事業も常に電材業界として誇りを持ち、その存在価値を高めるために業界に貢献していかねければなりません。会員各位の旧年に勝る貢献をお願いいたします。